

第13回 外地視察

栃木県・福島県を視察し各地の山田錦への真摯な取り組みに驚く



とちぎ瀬祭米の会・(有)大和川ファーム・(資)大和川酒造
会津電力(株)・福島県農業研究センター・圃場(魚沼・三条)

7月11〜12日、18名の参加者で栃木県、福島県を視察しました。

早朝出発して向かったのは、魚沼市(旧・堀之内町)の八木氏の圃場。協議会として魚沼地域では初めての山田錦栽培で心配しましたが、昨年は見事に一等。

しかも、他の地域より標高が高いのに出穂は早く、魚沼地域の谷間の環境が感光性の山田錦に合ったのではないかと推測されます。

○下野市の山田錦の取り組み

午後には栃木県下野市の「とちぎ瀬祭米の会」を訪ね、永山会長をはじめ3役と黒川顧問に迎えていただきま

した。永山会長からは、栃木県の普及所が山田錦栽培

培のサポートをしてい
ること、下野市では山田
錦の種子購入の補助金
制度があり、官民一体で
増産体制のバックアッ
プしている。

土地改良区の理事長
でもある黒川顧問の圃
場を視察しましたが、大
変よく手入れがされて
おり、山田錦の背丈も伸
びず非常に良好な状態
でした。畔はすべて芝を
植えており、山田錦栽培
への意欲を感じます。

麦との二毛作地帯な
ので「ウンカ」の被害が
とても多いことと夜温
が下がらずらいことが
課題とのことでした。

○大和川酒造見学

2日目は、喜多方市の
観光名所中心にある大
和川酒造「北方風土館」
を視察。酒蔵の歴史と酒
造りを視察。

○酒蔵の生産法人

大和川酒造は、平成11
年に(有)大和川ファーム
を設立し、現在では水田
40畝、そば12畝を栽培。
従業員は4名で夏は農
作業、冬は酒造りと通年

で雇用されています。山
田錦を始めとした酒米、
うるち米、加工米7種類
を栽培しています。海抜
200m強の高地なので
遅延型冷害が発生しや
すく、特に山田錦は2年
続けて収量・品質共に
悪かったので、対応策と
して出穂を早めるため
に田植えを10日早めて
GW中に行ったとの事。

又、「ソーラーシェア
リング」で田の上にソー
ラーパネルを設置し、売
電による安定的な農外
収入を得る事業も昨年
度から補助事業に採択
され取り組んでいます。

○電気も自給自足する

東日本大震災の原発
事故を契機に、大和川酒
造・佐藤社長を中心に

会津地域でのエネルギー
の自給自足を目指し、
会津電力(株)を設立。
雪深い会津地域でも
太平洋地域と比べて5
%程度しか発電能力は
落ちず、水力、バイオマ
ス、風力の自然エネルギ
ーを組み合わせることで、再生できる地域循環
型のエネルギーが産ま
れる。大きな構想に驚く
ばかりでした。

会津電力は平成5年
にパイロット事業で開
発した標高550m・1
900畝の土地を利用。
周辺の荒地地でそばを
栽培しながら、ブドウの
木を植えています。近い
将来ワイナリーの建設
も予定されています。

○福島県農業総合センター

研修の最後は、福島県
農業総合センター会津
地域研究所。今年度から
山田錦の栽培試験を始
めました。

同センターでは、原原
種の保存、原種の提供な
ど福島県の稲作を支え
る重要な役割を担って
います。山田錦は栽培試
験圃場で試験研究をさ
れていました。

福島県では農業総合
センターとハイテクプ
ラザ(工業試験場)が共
同研究し、福島県の日本酒
の評価を高めてきまし
た。有望系統の作出、現
地適応性、生産技術の確
立と着々と成果を出し
ています。特に山田錦に
関しては、遅延型冷害対
策として、会津地域での
適応性、出穂時期、成熟
期の前進化の可能性な
どを中心に研究します。

各地の山田錦への取
り組みは大いに刺激に
なりました。産地間での
競い合いでレベルを上
げると共に、産地間連携
も重要な課題であると
感じました。



とちぎ瀬祭米の会・永山会長と



会津地域研究所の試験栽培圃場